

# 議会だより



## TOPICS

年頭あいさつ .....	2
12月定例会 .....	3
議員が町政を問う .....	5
委員会報告 .....	14

# 年頭あいさつ2026

議長

にしやま 西山 宗弘 しゅうこう



新年あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、健やかに新春を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。令和8年の幕開けにあたり、日頃より町議会への温かいご理解とご支援を賜り、吉備中央町議会を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、小学校の統合、公設公営の

放課後児童クラブ設置な

ど、子育て・教育環境の再整備が完了し、スタートしました。円城浄水場問題におきましても、岡山県広域水道企業団からの全量受水

環境の整備、公費による飲水者の血液検査、健康影響調査もおこなわれ、さらに地域住民を交えての協議も

始まりました。

また、ふるさと納税指定団体取消処分につきまして、検証会を組織し、原因の究明と再発防止に努め、2年後の復帰に備えているところであります。

今年も子育て・教育、移住・定住施策の推進、基幹産業である農業の振興など

を通じて、町民の福祉向上を町執行部と共に目指してまいります。町議会としま

しても、町民の声を丁寧な受け止め、公正で透明性の高い議会運営を貫きながら、未来を見据えた議論を進めてまいります。

午年である本年が、吉備中央町にとって活力に満ち、前進の年となりますことを祈念し、新年のご挨拶といたします。



副議長

くろだ 黒田 員米 かづよね



新年あけましておめでとうございます。

町民の皆さまには、健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。日頃より吉備中央町議会の活動に対し、深いご理解と温かいご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。現在、本町を取り巻く状況は多岐にわたります。P

FASに代表される環境問題への不安、公共交通の維

持・確保、高齢化や人口減少への対応など、いずれも皆さまの暮らしに直結する重要な課題です。議会として、これら一つ一つに正面から向き合い、現場の声を大切にしながら、持続可能な解決策を探っていくことが求められています。

本年も公正で開かれた議会運営に努め、皆さまの声を町政に確実に届ける役割を果たしてまいります。皆さまにとって、この一年が安心と希望に満ちた年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

# 「こども誰でも通園制度」が始まります

## 12月定例会

12月定例会は、12月2日から12月18日までの17日間にあわたり開会されました。

町長から条例の制定及び改正5件、専決処分承認1件、団体規約の変更2件、過疎計画の策定1件、令和7年度一般会計及び特別会計の補正予算が上程されました。

また9月定例会において決算特別委員会に付託された決算認定3議案の審査報告があり、令和6年度各会計の決算が認定されました。その他の議案は審議の結果、原案どおり可決・承認されました。また最終日には国の人事院勧告に伴い、吉備中央町特別職の職員などの給与条例等の条例改正及び各会計の補正予算が追加上程され、可決後閉会されました。

### 一般会計補正予算

第3号補正予算は、歳入歳出それぞれ11億6235万円を減額し、総額11億1955万5千円。主な内容は障害児支援事業、中山間地域等直接支払制度事業、農地農業用施設災害復旧事業、協働のまちづくり寄附金事業など。（全会一致で可決）

### 主な質疑

#### 問

おかやま元気！集落活動促進支援事業補助金の減額理

### 答

由は。今年度事業を予定していた団体が、事業実施の見込みがたなくなることによる減額。



補正予算（第3号）の主な事業		
障害児支援事業	集団生活に適応するための専門的な支援の増額	848万5千円
中山間地域等直接支払制度事業	ドローンを使用した「スマート農業」などの増額	3540万円
農地農業用施設災害・土木災害復旧事業	令和7年8月・9月豪雨で被災した施設の復旧費の増額	3159万9千円
協働のまちづくり寄附金事業	寄附金事業終了に伴う事業費の精査による減額	△12億4008万8千円

**問**

福祉移送サービスの増額の理由は。

**答**

透析の方や高齢者、障害者の対象者の増加によるもの。

**一般会計補正予算(追加工程)**

第4号補正予算は、歳入歳出それぞれ3591万4千円追加し、総額116億5546万9千円、主な内容は人事院勧告に伴う特別職員等の給与改定。及び国の物価高対応子育て応援手当給付金による増額。

(全会一致で可決)

**条例の制定・改正(主なもの)**

○吉備中央町特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正

公職選挙法の改正に伴う選挙長、開票管理者等に係る報酬の改正及び有機フッ素化合物に関する対策検討委員会に係る報酬額の削減。公布の日から施行。  
(全会一致で可決)

**主な質疑**

**問** 有機フッ素化合物に関する対策検討委員報酬について

で、これは行政サイドからの改正ではなく「地域の皆さんから自分たちのことなので、協力できるところは協力したい。」との申し入れによるものであることを理解しているのか。

**答**

そのことについては、もちろん理解している。

○乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

全ての子どもを育ちを応援し、子どもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらず形での支援を強化するため創設された新たな通園制度(こども誰でも通園制度)が始まるにあたり、設備や運営に関する基準を定める条例を制定。保育所等に通っていない0歳6ヶ月〜満3歳未満の子どもを対象に保護者の就労要件を問わず、月10時間の枠内で時間単位で柔軟に対応できる制度。

令和8年4月



1日から施行。  
(全会一致で可決)

**主な質疑**

**問** 条例にある適切な訓練を受けた職員とは、どのようなものなのか。

**答** 保育士の資格を有したものであるか。

**問** 乳幼児に食事の提供をおこなうのか。

**答** 現場で提供ができる場合は提供し、できない場合はお弁当などを持参となる。

○火入れに関する条例の一部改正

火入れ許可期間中における火入れの禁止もしくは中止要件として、「異常乾燥注意報」を「乾燥注意報」に改め、新たに「林野火災注意報又は林野火災警報」を追加。令和8年1月1日から施行。  
(全会一致で可決)

**請願2件**

○政府に所得補償(直接支払い)制度の実現を求める請願→全会一致で採択

○選択的夫婦別姓制度の法制化を進める意見書の提出を求める請願→賛成少数不採択

**主な質疑**

**問** 選択制にした場合の不利益はいろいろあるとの報告であったが、他の意見として何があるのか。

**答** 実際に夫婦別姓を望む人が、町内にどれだけいるのかなどの意見があった。

**陳情2件**

○戦没者慰霊碑等の維持管理に関する陳情→賛成なしで不採択

**主な質疑**

**問** 今回は豊野地区単独での陳情であったが、今後遺族会全体からの陳情が出た場合は将来を見据えた検討をいただけるのか。

**答** 所管の審査委員会で審査されるものと理解している。

○最高裁判決に基づき全ての生活保護利用者に対する速やかな被害回復措置を求める意見書提出を求める陳情→全会一致で採択

## 一般質問

令和7年12月15日および16日

ページ	議員名	質問要旨
P6	山崎 誠	創業支援 住宅火災などの被災支援 カップリングパーティー
P7	日名 由香	町政 子どもの学びと人的体制の充実
P8	河上真智子	ごみ処理 公共交通
P9	平澤 一浩	地域おこし協力隊 小学校の安全対策 吉備高原地区の展望
P10	黒田 員米	重層支援体制整備 小学校 放課後児童クラブ
P11	丸山 節夫	農業振興 福祉事業
P12	我妻 瑛子	旧下竹荘小跡地活用 PFAS健康影響対策と調査
P13	渡邊 順子	まいたけ菌床栽培施設の指定管理 枯松の対策
P13	片岡 昭彦	町道・農道等における維持管理

一般質問とは、議員ごとの視点で地域の課題や住民の声を  
取り上げ、町長の方針や見解、説明を求めるものです。

あなたはどの質問に注目しますか？

## 議会を傍聴しませんか？

本会議は一般に公開されていますので、誰でも自由に見たり、聴いたりすることができます。皆さんの日常生活に関係のある重要な問題が審議されています。町政をもっと知るために、議会の様子を傍聴してみませんか？

※当日傍聴席入口で、傍聴人名簿に住所・氏名を記入するだけで、事前に予約する必要はありません。



やまぎさ 山崎 まこと 誠

# Q 地域に活力を生む創業支援を

## A 商工会と連携し農業分野も研究



創業塾

**Q** 起業時の創業支援は大切な制度である。成果と課題は何か。

**A** 大月協働推進課長  
創業支援は国から指針が示されている。町と商工会が連携し課題を調査し進めている。現在、相談20件、創業7件を年間目標としている。創業支援金は5年度4件、6年度0件、7年度は2件の予定である。

**Q** 創業支援金を受けるとは、商工会の創業塾の受講が条件となっている。創業塾は好評で、7

年度の受講は10人、定数いっぱいのため次年度に送った人もいる。意欲に添えられる行政のバックアップが必要ではないか。

**A** 協働推進課長  
創業のお手伝いが見つけ難いこともあり、商工会と連携しやっていきたい。

**Q** 現在、創業支援対象事業に農業が入っていない。農業立町の町として農業も対象にすべきではないか。

**A** 協働推進課長  
農業の追加については、他の補助事業との兼ね合いや財政等も考慮し研究する。

### 住宅火災などの被災支援

**Q** 住宅火災などで住まいが無くなった場合の、受け入れ体制はどうなっているか。

**A** 山本総務課長  
社会福祉協議会に協力をいただき、居住する

家のめどが立つまで仮住まいを提供している。

**Q** 円城の高齢者福祉施設で受け入れているが、利用料や居住期間など明示がなく、不安な日々を送っていたと聞いています。運用の指針など作成すべきではないか。

**A** 古林福祉課長  
利用に当たって、内容は説明しているつもりである。運用指針などは作成していない。

**Q** 被災の場合、減免措置の考えはあるか。

**A** 山本町長  
被災の状況を把握し検討したい。

**Q** 住宅火災の残材は産業廃棄物にあたり高梁クリーンセンターでは処理できないと告知された。法律では禁止されていないし、対応している自治体もある。

**A** 町長  
基本的に被災物の所有者が持ち込めば、処理

能力の範囲で可能と思う。

**Q** カップリングパーティーに農業イベントを

**A** 荒谷定住促進課長  
平成25年度からカップリングパーティーが企画実施されている。実績はどうか。

**Q** 過去に農業後継者クラブと連携し、企画実施した。今後もブドウ狩りなど農業体験イベントを実施したい。

**A** 定住促進課長  
過去に農業後継者クラブと連携し、企画実施した。今後もブドウ狩りなど農業体験イベントを実施したい。





ひな 由香  
日名 町長

# Q 首都岡山、町の将来像は

## A 日本の危機を支える拠点機能

**A** 大櫻企画課長  
町民ニーズの把握、関係機関との合意形成が課題。今後はアンケートに

**Q** 取り組む中で出てきた課題や今後に向けた対応方針は。

**A** 山本町長  
令和4年に特区指定を受け、デジタル技術を活用した健康・医療分野の課題解決に取り組んでいる。現在は救急救命処置の範囲拡大に向け、関係機関と調整を継続している。

**Q** デジタル田園健康特区の取り組みは、どう進んだのか。

町長は昨年12月定例会で、未来を切り開く柱として、デジタル田園健康特区の推進、首都岡山構想、吉備高原都市の可能性の三つを示した。1年経過した現在の進捗や成果、課題を問う。



「首都岡山」PRトラック

**A** 町長  
判断が不可欠であり、県内

よる意見収集と情報共有を進め、町民のウェルビーイング向上につなげていく。首都岡山構想として、今後予定している調整や誘致に向けた取り組みは。

**A** 石井教育長  
必要な県費教職員

**Q** 子どもの学びと人的体制づくりは。

**A** 企画課長  
産業用地は完売し、

**Q** 吉備高原都市における分譲地完売後の新たな宅地造成計画や見通しは。

外の関係者と連携しながら、吉備中央町と岡山県全体の魅力発信を進めていく。

**A** 教育長  
タブレット学習ドリルや小テストを活用し、児童一人ひとりの理解度やつまづきを把握している。

**Q** 教員が子どもと向き合う時間の確保は。

**A** 教育長  
本年度から各校に業務アシスタントを配置している。併せて、スクールソーシャルワーカーなどの外部相談員と連携し、不登校や行動面への対応を含め、教員が子どもにも向き合う時間を確保できる環境づくりを進めている。

**Q** つまづきに対するICTや学力データを活用した、早期支援の考えは。

基礎の定着や発展的な学習につなげるとともに、学習ソフトの充実や教職員のICT活用研修を進め、個別に応じた学びを支えていく。



かわかみ まちこ  
河上真智子

**Q** より利用しやすい公共交通に

**A** 利便性の向上に努める

**Q** 町内循環へそ8バスは、社会的インフラとしてこの先も維持する必要がある。しかし、漫然と運行するのではなく、乗降場所や乗客数などを勘案しながら、適宜路線や運行ダイヤの見直しが必要ではないか。

**A** 現在、利用者調査やドア開閉データを用いた路線の見直し作業をおこなっている。結果については、次回の交通会議で審議していただく予定。

**Q** 費用対効果やドライバー不足などの状況を考慮すると、すぐには厳しいと考える。今後、運行業者との協議をおこないつつ、ライドシェアの導入の可能性についても検討していく。今後利用者ニーズや必要性に応じて運行時間の調整をおこない、限られたリソースを効果的に活用しながら利便性の向上に努めていきたい。

**Q** ふれあいタクシーとデマンド型タクシーの2つの制度がある。互いの利点を活かしながらシンプルな体制にできないか。

**Q** デマンド型タクシーの運行時間の拡大、土日祝日の運行についての要望があるが、検討はなされているか。

**Q** 公共交通の安定的な運行にはドライバーの確保が欠かせない。交通事業者の自助努力だけでなく、何らかの支援策が必要ではないか。

**A** ドライバー不足は全国的な課題である。交通事業者の意見も参考にしながら、実効性のある支援策について協議を進めていく。

**Q** 家庭ごみの搬入量は、年々増加傾向にある。中でも重量がある生ごみの減量化は、処理費用の軽減につながる。家庭用生ごみ処理機の購入補助制度を活用したごみの減量化を推進するためにも補助金の上限の引き上げをどうするか。

**Q** リチウムイオン電池の発火事故が多く報じられている。適切な廃棄方法の再度広報が必要ではないか。

**Q** 「ごみ分別ガイドブック」を参考に適切に分別・表示し、不燃ごみとして廃棄してほしい。



町の公共交通



電動式は購入費用の2分の1で上限3万円。他市町村と比較すると平均的だが、購入価格や他市町村の動向を注視しながら今後研究検討したい。

**Q** 「ごみ分別ガイドブック」を参考に適切に分別・表示し、不燃ごみとして廃棄してほしい。

**Q** 家庭ごみの搬入量は、年々増加傾向にある。中でも重量がある生ごみの減量化は、処理費用の軽減につながる。家庭用生ごみ処理機の購入補助制度を活用したごみの減量化を推進するためにも補助金の上限の引き上げをどうするか。



生ごみ処理機

**A** 宮田住民課長  
現在の補助金は、

**ごみ処理**

**Q** 家庭ごみの搬入量は、年々増加傾向にある。中でも重量がある生ごみの減量化は、処理費用の軽減につながる。家庭用生ごみ処理機の購入補助制度を活用したごみの減量化を推進するためにも補助金の上限の引き上げをどうするか。

**A** 現状では、利用者はデマンド型タクシーに段階的に移行している。今後、両制度の在り方や統合の可能性については、方向性を調整し、適切な見直しに向けて進めていきたい。

**Q** ふれあいタクシーとデマンド型タクシーの2つの制度がある。互いの利点を活かしながらシンプルな体制にできないか。

**A** 現在、利用者調査やドア開閉データを用いた路線の見直し作業をおこなっている。結果については、次回の交通会議で審議していただく予定。

**Q** デマンド型タクシーの運行時間の拡大、土日祝日の運行についての要望があるが、検討はなされているか。

**Q** 家庭ごみの搬入量は、年々増加傾向にある。中でも重量がある生ごみの減量化は、処理費用の軽減につながる。家庭用生ごみ処理機の購入補助制度を活用したごみの減量化を推進するためにも補助金の上限の引き上げをどうするか。

生ごみ処理機





ひらさわ かずひろ  
平澤 一浩

## Q 地域おこし協力隊は

## A 32名活動終えて3名が定住

進める。住まいの支援を含め、定住につながる環境整備を進める。

8年度、活動の任期が終了する隊員は1名。その後、町内で働き、暮らし続けられるよう、就業や住まいの支援を含め、定住につながる環境整備を進める。

**Q** 隊が定住できなかった理由として、把握しているものはあるか。

**A** 主に学びの場の運営や観光事業に従事してきたが、町内での就業先確保が難しく、定住につながる働きかけを十分におこなえなかった点が課題である。

**Q** 働き先の確保、定住支援などをふまえた今後の展望は。

**A** 日常的な面談や意思疎通を重ね、活動分野に限らず町内定住を希望される方への支援を続けていく。令和7年度、現在8名が活動中。令和8年度、活動の任期が終了する隊員は1名。その後、町内で働き、暮らし続けられるよう、就業や住まいの支援を含め、定住につながる環境整備を進める。

**Q** 地域おこし協力隊が定住できなかった理由として、把握しているものはあるか。

**A** 主に学びの場の運営や観光事業に従事してきたが、町内での就業先確保が難しく、定住につながる働きかけを十分におこなえなかった点が課題である。



公営塾kii+



観光協会

今後、情報共有を徹底していく。

と教育委員会が即時連絡できる体制を構築しており、今後、情報共有を徹底していく。

**Q** 停電や災害時を想定したマニュアル整備や体制づくりは、どう考えているか。

**A** 休日を含め、学校と教育委員会が即時連絡できる体制を構築しており、今後、情報共有を徹底していく。

**Q** 朝7時30分頃に、小学校からの連絡により把握。停電などの非常時に、休校にするかどうかの判断は誰がするのか。

**A** 各学校長が判断する。

**Q** 中山教育委員会事務局長

朝7時30分頃に、小学校からの連絡により把握。停電などの非常時に、休校にするかどうかの判断は誰がするのか。

**Q** 吉備高原都市の一部における10月21日の停電発生を教育委員会が把握した時刻は。

### 小学校の安全対策

整備の熟度が高まってきた。町は、時代に合わなくなった計画の見直しを県に要望していく。道路整備や企業誘致、民間活力の活用を含め、吉備高原都市計画を一步前へ進めていきたい。

整備の熟度が高まってきた。町は、時代に合わなくなった計画の見直しを県に要望していく。道路整備や企業誘致、民間活力の活用を含め、吉備高原都市計画を一步前へ進めていきたい。

**Q** 吉備高原地区の展望は

**A** 吉備高原都市は、産業用地が完売し、住宅分譲地も残りわずかとなり、整備の熟度が高まってきた。町は、時代に合わなくなった計画の見直しを県に要望していく。道路整備や企業誘致、民間活力の活用を含め、吉備高原都市計画を一步前へ進めていきたい。



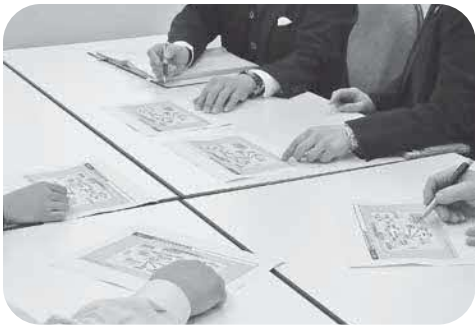
停電が起きた小学校

# Q 重層的支援の今後は

# A 町が直営で実施する



くろだ ますはる  
黒田 眞栄



会議の様子

**Q** 本町が描く重層的支援体制整備事業のビジョンは。

**A** 古林福祉課長  
町では、複雑化・

多様化する福祉課題に対応するため、年齢や障がいの有無、世代を問わず支援をおこなう「重層的支援体制整備事業」を進めている。本事業は、包括的な相談支援、社会参加を促す参加支援、地域で支え合う関係づくりを一体的におこなうものである。町は、どの窓口でも相談を受け止められる体制を整え、社会的孤立が懸念され

る人に対して、必要な支援や社会資源につなぐとともに、新たな居場所づくりにも取り組む方針である。また、世代や属性を超えた住民同士の交流を広げ、地域全体で支え合う体制づくりを目指すとしている。

実施での庁内連携は、関係課による支援会議を通じ、縦割りを超えた横断的な支援をおこなう。社会福祉協議会は、行政では手が届きにくい部分を補完し、居場所づくりや多世代交流など、地域づくりの重要な担い手と位置付けている。

当初は社協へ委託予定であった多機関協働事業は、国の方針変更により町が直営で実施することとし、行政が事業全体の調整や進行管理を担う。今後は、関係機関と連携し、令和8年度の本格実

施に向け、ICT活用も含めた持続可能な支援体制の構築を進めていく。

**Q** 学校の働き方改革と地域連携の在り方は

**A** 石井教育長  
今後、地域学校協働本部運営委員会や学校運営協議会などで、学校の働き方改革の現状について地域へ説明をする。併せてさまざまな実践事例を学校と

はできないか。地域や公民館行事への学校職員の参加



地域交流イベント

地域で共有し、地域と学校がネットワークを形成できるように取り組みたい。

**Q** 放課後児童クラブ利用要件の見直しは

**A** 片山子育て推進課長  
町では児童クラブ

公設公営化では、地域との関わりが低下しており、国の指針の範囲内で柔軟な運用を検討をすべきでは。

どの理由による幅広い受入れ要件の緩和を随時おこないい対応している。より良い子どもの居場所づくりを目指して、地域や関係機関と連携を図りながら検討したい。

**A** 山本町長  
子育てに優しい町を目指して、県内事例を調査し、財政面も考慮しながら、さらなる利用要件の緩和や見直しを検討する。



丸山 節夫

## Q 農業支援補助金制度の継続は

## A 現行補助制度は継続

**Q** 向こう2年間のふるさと納税制度の指

定団体取消処分に伴い、当該寄附金を活用した数多くの農業支援補助政策の動向は、誰しもが心配する状況となった。各種補助政策の来年度以降の継続を町長に問う。

**山本町長**

**A** 高温化などの気象変動に加え、国の方針転換に、多くの米作り農家は不安を感じている。

現在の農業は、必要な資機材も高騰する状況下、しっかりと農業を続けていきたい。そのためにも、現行の農業補助は引き続き継続していく思いである。

**Q** 昨今の米需給の混乱や、物価高騰に加え、生産年齢の高齢化は、生産意欲の低下や農作不安を招く農家共通の厳しい現実と受け止める。

こうした時だからこそ、農家気運を高めるべく、町独自の農家支援策の展開が

必要では。一例として、J

A、県普及指導センター、行政が連携する生産者向けの研究討論会や講演会、農業祭などの施策展開の必要性と意義を問う。

**石坂農林課長**

**A** 現在、備前県民局管内では、農業指導関係者が連携し、農業技術の普及

や地域特性を活かした農業振興を目的とする、農業技術者連絡協議会が組織されている。米作りでは、低コスト技術、温暖化対策やスマート農業技術など、地域が抱える課題に取り組んでいる。

今後とも、地域課題やニーズの把握に努め、必要に応じて講演会や勉強会などの実施を検討する。

**Q** 今日、農業経営に最も重要である米価の安定化は農政施策推進の

要と捉える。

中でも、米価安定対策の

取り組みとともに農家労務負担軽減の一策は必須。農家の願いである米価安定対策と、3tクラス重機・草刈り作業機械（アタッチメント）の購入補助要望に

関する町村会の働きかけとして、国への政策要望の必要性を問う。



重機による草刈り

**A** 町長

県町村会では、今までも農林業者への物価高騰対策の継続、拡大や生産水準の維持や機械導入補助に對しても、事業要件の

緩和と補助率、補助金上限額の引き上げを要望している。今後とも、生産者の安

定の営農の継続や、所得向上対策など、国へしっかりと要望していく。

**Q** 町では、今年10月にふるさと納税指定

復帰に向け、町長諮問組織「町ふるさと納税検証会」を発足された。

本検証会の設置を踏まえ、会の概要、進捗状況を問う。

**A** 大月協働推進課長

町では、指定取消しの経緯、原因の分析を通じて、制度運用の検討を始め、再発防止策の提言を目的として協議を図る。これまでに3回の会議が開催された。今年度中には、主原因となった奨励金制度などの運用方法を含め、検証報告書が提出される見込みである。

他、福祉事業を問う。



あつま えいこ  
我妻 瑛子

## Q 旧下竹荘小の跡地活用方法は

## A 教育と福祉の拠点に

**Q** 公営塾、閉校後の資料や歴史的民俗資料の展示、地域集いの場、社会福祉協議会の他、6月17日の全員協議会では地域包括支援センターの名前も上がった。検討されている活用組織は変わりないか。

**A** 山本町長  
教育関係部門と福祉関連部門の集約を考えている。教育委員会の事務局、公営塾、業務内容の大半が教育関係である子育て推進課もその対象として検討している。

**Q** ハザードマップで土砂災害警戒区域に指定されている。社協は災害発生時、ボランティアセンターを立ち上げる組織。福祉的な拠点としても核となる社協を置く場所として相応しくないのではないか。

**A** 大櫻企画課長  
台風や線状降水帯などで災害リスクが高まる際には、特に注意が必要な地点であることは認識して

いる。旧下竹荘小は、町のほぼ中央に位置しており、住民がアクセスしやすい立地条件にある。そのため、災害時には迅速な支援活動が可能となり、地域全体の福祉ニーズに、対応しやすくなることも期待できる。万が一の事態に備えて、災害時の安全性を高める対策を講じること考えていく。

**Q** 町の中心地だから動きやすいと  
言うが、被災したら対応できないのではないか。災害発生時も社協や包括が抱えている方たちへの支援はそれぞれの組織が続いていかなければならないという状況。その拠点をなぜ危ないところに置かないといけないのか。そういったことをしないためにハザードマップがあるのではないか。

**A** 企画課長  
事務所機能の移転であり、それ以外の社協の事業はこれまで通り、既存の施設でおこなっていく。隣の下竹荘公民館は避難場所にもなっており土砂災害警戒区域にも該当していない。もし何かあったときには、別のところでも業務がおこなえるような体制も考えていきたい。



移転が検討される社会福祉協議会

### P F A S 健康影響対策

**Q** 子どもの学校健診データ利用の進捗状況は。

**A** 塚田保健課長  
健康調査票で同意を得られてない方に対して、改めて対象の保護者に同意書を送り、現在取りまとめ作業中。

**Q** 新たに設置される委員会の設置目的は。

**A** 保健課長  
基本的方針に掲げる方策への助言や評価、中・長期的な対策に関する助言や評価などを想定している。

**Q** P F A S に係る疾患や、最新の知見の収集をおこなう医師による診察や相談が受けられる、P F A S 外来の設置を検討してはどうか。

**A** 保健課長  
関係機関と相談し研究する。

挨拶



わたなべ じゅんこ  
渡邊 順子

## Q まいたけ栽培施設の今後は

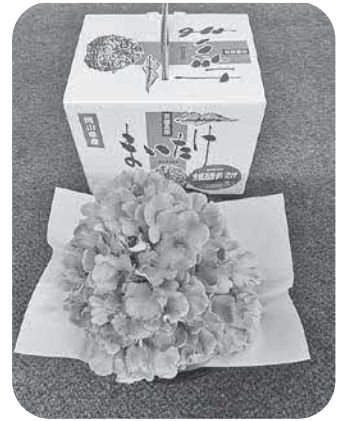
## A 新たな指定管理者を募集

**Q** 現在吉備中央町がほぼ中心となっている町の特産物と言えるのではないかと。今後、まいたけを町の特産物として残し、施設の存続を図ることはできないか。

**A** 農林課長  
まいたけは町

**Q** 指定管理者から、中途解約の申し出があり、条例に基づき本年度末をもって指定の取消をおこなった。

**A** 石坂農林課長  
指定管理者から、中途解約の申し出があり、条例に基づき本年度末をもって指定の取消をおこなった。



吉備中央町産まいたけ

の特産物と位置付けることができると考えている。指定取消により生産ができなくなることは、非常に残念である。今後、施設や機械の状況など確認し、これまでと同条件で指定管理者を募集する方向で調整していく。

**Q** 岡山県下において現在吉備中央町がほぼ中心となっている町の特産物と言えるのではないかと。今後、まいたけを町の特産物として残し、施設の存続を図ることはできないか。

**A** 大月建設課長  
現場確認をおこない、職員または業者に依頼し、速やかに撤去する。また、電柱を設置している事業者を確認し、連絡する。今後もし引き続き、定期的にパトロールし安全対策に努め、支障木伐採や道路の維持管理を進めていきたい。

**Q** 枯れ松の倒木と、電線にかかる支障木の対応は。

**A** 大月建設課長  
現場確認をおこない、職員または業者に依頼し、速やかに撤去する。また、電柱を設置している事業者を確認し、連絡する。今後もし引き続き、定期的にパトロールし安全対策に努め、支障木伐採や道路の維持管理を進めていきたい。

定例会

一般質問

委員会報告



かたおか あきひこ  
片岡 昭彦

## Q 農道への倒木除去ができないか

## A 農業関係補助制度の活用を

**Q** 農道への枯れ松の倒木を、町による農道同様の除去対応を。

**Q** 草刈り応援隊の設立・運営に当たり、現状制度の拡充を。

**Q** 農道への枯れ松の倒木を、町による農道同様の除去対応を。

**A** 山本町長  
広域営農団地やふるさと農道などにおける除去は、町が対応している。地元管理である農道は、地元に対応をお願いしている。除去方法として「中山間地域等直接支払制度」や「多面的機能支払交付金」の活用を検討し、農道の維持・管理に努めてほしい。今後は地域の状況を鑑みながら、自治会や受益者などと協力体制を整え適切な対応を検討する。



枯れ松の倒木

**A** 町長  
草刈り応援隊制度は、平成31年度から施行。4団体の設立があったが、組織化が進まず制度の利用が低迷。時限立法のため令和7年度末で終了。今後は美しい農村の景観や生活環境を守るために、草刈り応援隊制度には意義を感じており、拡充も含め前向きに検討する。

**A** 町長  
草刈り応援隊制度は、平成31年度から施行。4団体の設立があったが、組織化が進まず制度の利用が低迷。時限立法のため令和7年度末で終了。今後は美しい農村の景観や生活環境を守るために、草刈り応援隊制度には意義を感じており、拡充も含め前向きに検討する。

## 総務産業常任委員会

# 広島県安芸太田町、島根県飯南町を視察してきました！

10月30日～10月31日、総務産業常任委員会の委員・関係課職員計8名で、広島県安芸太田町、島根県飯南町を視察し、地域公共交通の取り組みを学びました。



挨拶

定例会

一般質問

委員会報告



## 広島県安芸太田町

総人口：約5,200人



広島県安芸太田町公式サイト

## デマンド交通のキャッシュレス化

安芸太田町では、広域路線バス・町内バス・デマンド交通（もりカー）・福祉有償運送・定額介護タクシー・スクールバス・ライドシェアなど、多様な移動手段が整備されています。

特に「もりカー」は、地域通貨の「moricaカード」によるキャッシュレス決済が可能で、日常の移動がより便利になっている点が印象的でした。

一方、吉備中央町のデマンドタクシーは現金利用のみのため、利用のしやすさという面で改善の余地があります。

全町民に普及している「ベリーぐっどカード」を活用し、デマンドタクシーのキャッシュレス化が実現できれば、利用者の負担軽減と利便性向上につながると感じます。



moricaカード

## 自動運転サービスの取り組み

飯南町では、生活路線バスと民間路線バス、デマンドバスがあり、生活路線バス5路線のうち2路線は一般混乗可能なスクールバス運行でした。また、飯南町の南部に位置する自治振興会では、地域住民の互助により1乗車200円でライドシェアを運営しています。そして、国の社会実装実験として役場周辺でゴルフカート型の自動運転サービスがあり、令和3年10月本格運行が開始。積雪量が多く道路に埋設したケーブルを除雪作業時に損傷してしまうため、修繕費用が多額になることから令和6年4月から休止しています。



当町では、除雪作業はあまりないことから、きびプラザ周辺での導入ができれば、移動手段が確保できるのではないかと考えます。



## 島根県飯南町

総人口：約4,300人



島根県飯南町公式サイト

## 民生教育常任委員会

令和7年度にスタートした各小学校のアフタースクールを、10月9日加賀西小「デジタルアート」、10月22日加賀南小「国際交流」、11月7日加賀東小「ドローン体験」を視察し、11月21日に委員会で関係部局と協議した。

### 「アフタースクールとは」

アフタースクールとは、放課後の時間を利用し子どもたちの気づき場として、地域の人や企業・団体の方を講師に迎え、年間を通してさまざまな体験活動をおこなう。その体験活動を通して、自分の見聞を広げたり得意分野を発見したりすることを目的としている。

#### 主な確認事項

①

本事業の目的である、気づきの場として、体験活動となっているか。

- 体験する内容によって、目的である自分の見聞を広げたり、得意分野を発見したりする機会となっていた。

②

参加している子どもの様子

- 視察した内容によっては、いきいき活動している子どもの姿を見ることができたが、一部集中力の欠ける子どもも見受けられた。

③

アフタースクールに参加するための、下校後からの待機している子どもたちの様子と合わせて、移動を含めた一連の流れ

- 下校後、待機する場所と開催する場所が離れているため、移動に対する安全性に課題を感じた。

#### まとめ

関係部局と課題を協議し、本事業の目的が果たされるように、当委員会として引き続き注視していき、持続可能な運営体制の構築を希望する。

## デジタル化特別委員会

10月22日、委員会を開催した。

### 「主要議題」

#### 令和7年度の事業計画

- ①救急搬送時のライブ配信や音声通話機能の開発
- ②スマホを利用した保健指導サービスによる健康増進
- ③データ連携基盤への家族情報登録機能の開発
- ④①～③の開発普及促進に約5,900万円

#### 導入済み事業の現状

(9月30日時点)

- ①きびアプリ登録者数は累計2,802人
- ②買い物サービス利用は2,393件
- ③困りごと相談は1,846件
- ④救急医療のiPicss（アイピクス）利用は18件
- ⑤共通診察券発行は累計239人

#### 救急医療デジタル化の現状

岡大病院・高度救急救命センターの上田医師による説明

- ①救命救急士による超音波検査の現状
- ②傷病別データや搬送時間
- ③ドクターヘリ、ドクターカーとの比較

# 追跡

あの時の質問  
どうなってる？

過去の一般質問の追跡調査をおこない、進捗状況・結果を報告する。

## Q 質問(令和4年3月定例)

当町において、移動手段を持たれていない方々への外出機会の創出と地域活性化を図るために、今後町が取り組む具体的構想を尋ねる。

## A 答弁

デジタル技術を活用し、巡回バスの走行位置やルートを可視化、および小型の電気自動車を地域シェアし、既存の公共交通と組み合わせて運用。公共交通システムのデジタル化を図り、AI技術を活用した公共交通の利便性の向上を図るとともに、地域住民によるアナログ感の残る優しさあふれる助け合い交通も同時に検討をしていきたいと考える。

## 現 状 (総務課)

現在は、デジタル田園都市国家構想事業のデジタル実装TYPE1を活用したデジタル技術を活用した公共交通の取り組みとして、デマンド型乗合タクシー（AIシステムによる乗合の効率化）、へそ8バス（バスロケーションアプリによる運行の見える化）を実施。

今後は、優しさあふれる助け合い交通として、「ライドシェア（一般ドライバーにより地域交通を補完する手段）」を移動手段の一つとして検討。整理すべき課題（安全の確保、運行の管理、地域住民の負担、既存交通との調整など）も多い。国のガイドラインや先行自治体の事例を十分に参照し、導入に向けて慎重に見極めるとともに、地域の実情に即した持続可能な交通体系の構築に向けた検討が必要。

## Q 質問(平成31年12月定例)

自主防災組織には、各種の補助金の制度があるが1回だけの補助なのか。

## A 答弁

資機材の補助は1回となっているが予算の限度内で見直し検討する。

## 現 状 (総務課)

防災資機材の購入における補助は、自主防災組織に参画している世帯数により上限額が異なるが、30万円～200万円を限度に、初回交付年度から翌々年度までに回数に制限無く申請できる。



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。

令和8年は午年です。力強く大地を駆ける馬のように、本年もスピード感と行動力を大切にしながら、町民の皆さまの声を議会活動に反映してまいります。

本号の「議会だより」が、議会をより身近に感じていただく一助となれば幸いです。

本年も変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。雪の季節は外出も大変ですが、どうか体調に気を付けてお過ごしください。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。  
高森 学

